

大学附属病院本院以外の特定機能病院の 現状及びあり方等について

医療提供の状況について

- 以下のデータは令和4年DPC退院時調査において、各疾患DPC（6桁）における手術あり（輸血を除く：コード97）の症例数（退院患者数：年間）を医療機関ごとに集計したものの分布を医療機関類型ごとに示したものである。なお、実績が年間9件以下の場合、マスキ処理される。今回は、便宜的に0件と同様として処理した。
- 特定機能病院以外の病院は、断りがない限り、一般病床が400床以上の病院に限って実績を提示している。
- 国立国際医療センター病院は、令和7年4月より国立感染症研究所（NIID）と統合され「国立健康危機管理研究機構（JIHS）」となったが、本資料では、調査時点の分類に基づき、ナショナルセンターとしている。

大学附属病院本院以外の特定機能病院における医療提供の現状と論点

【現状】

- 悪性腫瘍等の手術等については、特定領域型において、一定の実績があり、総合型で低い傾向がある。特定領域型において、脳腫瘍等では大学附属病院本院の上位と同程度であるが、食道がんや胃がんで、大学附属病院よりも高い傾向にある。急性白血病では、ナショナルセンター以外では実績がない。
- 悪性腫瘍以外の疾患の受入については、敗血症や救急搬送の受入について、特定領域型で低い傾向にある。また、股関節・大腿近位の骨折等についても、特定領域型で低い傾向にある。急性膵炎については、ナショナルセンターの総合型で実績がなく、ナショナルセンター以外の総合型での実績は大学附属病院本院と同程度である。
- また、領域横断的に実績を比較した場合、大学附属病院本院以外の特定機能病院を上回るその他の病院が同一都道府県に複数存在する場合が多い。

【論点】

- 医療の高度化等により、高度と考えられる医療提供の中には、特定機能病院以外の病院でも実施されるようになっているもの、特定機能病院とそれ以外で実施件数が変わらないものがみられるようになってきている状況等を鑑み、また、大学附属病院本院において求められるものとの関係も勘案した大学附属病院本院以外の特定機能病院等における上記のような医療提供の現状等を踏まえ、大学附属病院本院以外の特定機能病院のあり方・取扱いをどのように考えるか。
- その際、特に、特定領域型について、（領域が絞られた上での実績であることに留意が必要であるという指摘がこれまであったことに留意しつつ）上記のような医療提供の現状等を踏まえ、大学附属病院本院以外の特定機能病院のあり方・取扱いの検討の中で、どのように考えるか。

特定機能病院等における 医療技術の開発・評価等の状況

大学附属病院本院以外の特定機能病院における医療技術の開発・評価等の現状と論点

【現状】

- 大学附属病院本院以外について、総合型については、研究費の獲得状況、論文発表の双方について、低い傾向にある。特に、学振については、ナショナルセンター・ナショナルセンター以外の双方において低い傾向にある。AMEDについては、ナショナルセンター以外で低い傾向にある。論文発表実績について、総合型では、Case Reportの割合が高い傾向にある。
- 特定領域型については、ナショナルセンターでAMEDの実績が特に高い。ナショナルセンター以外でもAMEDの実績は高い傾向にある。一方、厚労科研は低い傾向にある。またナショナルセンター以外で学振の実績が低い。また、論文発表実績について、ナショナルセンターについて高い傾向にあり、ナショナルセンター以外でも大学附属病院本院と同程度となっている。

【論点】



- 大学附属病院本院において求められるものとの関係も勘案した大学附属病院本院以外の特定機能病院等における上記のような医療技術の開発・評価(研究)の現状等を踏まえ、大学附属病院本院以外の特定機能病院のあり方・取扱いをどのように考えるか。
- その際、特に、特定領域型について、(領域が絞られた上での実績であることに留意が必要であるという指摘がこれまであったことに留意しつつ)上記のような医療技術の開発・評価(研究)の現状等を踏まえ、大学附属病院本院以外の特定機能病院のあり方・取扱いの検討の中で、どのように考えるか。

特定機能病院等における 医療に関する研修等の状況 (医師派遣に関する論点を含む)

大学附属病院本院以外の特定機能病院における医療に関する研修等 (医師派遣を含む)の現状と論点

【現状】

- 大学附属病院本院以外における医療に関する研修等(教育)(医師派遣を含む)について、臨床研修医については、特定領域型においては受け入れていない。専攻医については、内科については、一部の特定領域型において受け入れているが、他の診療科について、特定領域型では基幹型プログラムを有していない。
- 研修については、医師以外への研修について、大学附属病院本院以外では実績が低い傾向にあり、総合型で実績が特に低い傾向にあるが、ナショナルセンター以外の総合型では、業務管理に関する研修が行われている。また、他の医療機関所属者への研修については、特定領域型で実績が多い傾向にある。
- 大学附属病院本院以外の特定機能病院は、医学部生への卒前教育を行う機能を有していることや大学附属病院本院が実施しているような医師派遣を行うことについて基本的に想定されていない。

【論点】

- 大学附属病院本院において求められるものとの関係も勘案した大学附属病院本院以外の特定機能病院等における上記のような医療に関する研修等(医師派遣を含む)の現状等を踏まえ、大学附属病院本院以外の特定機能病院のあり方・取扱いをどのように考えるか。
- その際、特に、特定領域型について、(研修医、専攻医を受け入れていないことや、特定領域型のみ求められる研修要件があること等を踏まつつ)上記のような医療に関する研修等(医師派遣を含む)等の現状を踏まえ、大学附属病院本院以外の特定機能病院のあり方・取扱いの検討の中で、どのように考えるか。

大学附属病院本院以外の特定機能病院のあり方等についての論点等

大学附属病院本院以外の特定機能病院等におけると論点

【現状】

- 医療の提供については、特定領域型については、悪性腫瘍全般について、比較的高い実績がみられるものの、一部では、実績が低いことがある。総合型については、悪性腫瘍についての実績が低いものが散見されることや、救急搬送の受入や誤嚥性肺炎、心不全等の受入実績は高いものの、急性白血病や急性膵炎等について、必ずしも実績が高いとは限らない状況等、疾患の幅広さ、受け入れる疾患の重症度等について、大学附属病院本院よりも低い傾向がある。
- 医療技術の開発・評価等(研究)については、特定領域型で、AMED研究費の獲得や論文発表実績などで高い実績がみられるが、総合型では、低い傾向にあり、また、学振の実績については双方で低い傾向にある。
- 医療に関する研修等(教育)(医師派遣を含む)については、特定領域型において臨床研修医や専攻医の受入が少なく、総合型において、特に研修について実績が低い傾向にある。また、医学部生への卒前教育を行う機能を有していることや大学附属病院本院が実施しているような医師派遣を行うことは、大学附属病院本院以外では基本的に想定されていない。

【論点】

- 今般、特定機能病院としての大学附属病院本院について、特定機能病院は高度な医療を提供するため、研究・教育・医療安全についても一体として求められている(それらにより、地域において医療を提供する基盤となっているという点も含む)との観点で、求められる機能等を整理したことや、これまで提示・議論されてきた大学附属病院本院以外の医療・研究・教育・医師派遣等の現状も踏まえ、大学附属病院本院以外の特定機能病院についての承認基準を含めたあり方・取扱いをどのように考えるか。
- その際、併せて、特定領域型の取扱いについて、上記論点を含めて、どのように考えるか。
- また、見直しを行う場合、実務的な観点を含め、既に特定機能病院となっている大学附属病院本院以外の病院の取扱いや承認基準を含めたあり方・取扱いと新規承認に関する取扱いの関係等について、今後、事務局等での整理を行っていく際の留意点等を含め、どのように考えるか。